



2018-19年度  
国際ロータリー会長  
バリー・ラシン

# Weekly Report Niigata



2018～19 年度  
新潟ロータリークラブ会長  
若槻 良宏



国際ロータリー  
2018-19 年度テーマ

インスピレーションになろう

新潟 RC 10 月第 4 例会 (2018.10.23) No.3254

## (1) ロータリーソング「それでこそロータリー」 斉唱

## (2) 若槻 良宏会長挨拶

本日は、爽やかな秋のよき日に、ここイタリア軒において、新潟ロータリークラブの元会員の高橋清文さん、新潟ロータリークラブのご家族の皆様、新潟ローターアクトクラブの塚田忠幸会長はじめ5名のローターアクトの皆様、米山奨学生のチャギーさん、長期交換留学生のレインさんをお迎えし、月見例会が開催できることを大変うれしく思います。

本日は月見例会です。人類が初めて月面に着陸したのは1969年7月20日でした。これまでに、月を訪問したのは24人で、そのうち月面に着陸したのはわずか12人です。いずれも米国人です。先月、米国のある宇宙開発会社が、2023年に計画している月の周回旅行に、民間人として日本人の起業家が初めて月へ向かうと発表しました。これが実現すれば、記録上、日本人として初めての月への訪問になります。月は、古から日本人にとって特別なものでした。月見の風習は唐から伝わり、当初は上流社会で行われていましたが、次第に大衆に広がっていきました。中秋には大陸から乾燥した冷たい空気が流れ込み、大気の澄んだ季節となり、月がとても美しく見えることから、上流社会で観月の宴を催し、風雅に月を愛でていましたが、後に作物の収穫と結びつき、人々は豊かな実りの象徴として月を鑑賞し、お供えものをして感謝や祈りを捧げるようになったとのことです。本日の月見例会も、感謝の気持ちを大切に、皆様と楽しく過ごしたいと存じます。

さて、10月16日に、前橋ロータリークラブの創立65周年の記念式典に参加してまいりました。前橋ロータリークラブは、桐生ロータリークラブ及び東京ロータリークラブをスポンサークラブとして、1953年9月8日に創立されました。現在の会員数は122名です。新潟ロータリークラブは、1994年4月12日に友好クラブの協定を締結し、以後、友好クラブとして交流をさせていただいています。式典では、創立65周年の記念事業の発表がありました。前橋市民の憩いの場である敷島公園の「ばら園」に「インスタ映え」するバラのモニュメント「ばら園 愛をつなぐアーチ」を製作設置し、寄贈するという事業です。式典に続いて、懇親会が開催されました。懇親会では、前橋ロータリー

クラブ会員の遠山昌子さん(元宝塚歌劇団宙組)が素敵な歌声を披露してくださいました。また、前橋ロータリークラブは、ロータリー財団の未来の夢計画のVTT(職業研修)として、モンゴルから、聴覚障害者の教育に携わる9名の教職員を招いて、群馬大学の協力のもと、障害児童の教育法の研修を行っており、懇親会の席上、職業研修チームの方々の紹介がありました。とても興味深いプロジェクトであり、前橋ロータリークラブの充実した活動の一端を知ることができました。そのモンゴルの皆様から、『CHINGGIS GOLD』という有名なウオッカを頂戴しました。また、前橋ロータリークラブの友好クラブである水戸ロータリークラブから、日本酒「副將軍」を頂戴し、さらに、前橋ロータリークラブから、前橋の偉人を顕彰して造られた日本酒「前橋偉人列伝地酒」を頂戴しました。前橋の四公のひとりであり、大胡(おおご)藩主、牧野家2代目忠成公は、その後転封し、後の初代長岡藩主になったお方です。「常在戦場」のルーツが前橋にあることがわかり、前橋と新潟との縁を感じました。

頂戴したお酒については、友好クラブからの友情に感謝しつつ、本日の宴にて、皆様ともに味わいたいと思います。どうぞ残すことなくお飲みください。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

## (3) ゲストの紹介

元会員1名、米山奨学生1名、長期交換学生1名、新潟 RA5名 ご家族7名

## (4) 同好会報告

小林 建ゴルフ同好会幹事

さわやかな秋晴れの中、今年最後のゴルフ例会が10月21日に開催されました。優勝は新潟博報堂の中尾さんでした。前任の山田さんに続き今後も活躍されそうです。栗原さんも初参加され、グロスで3名が後塵を拝するという十分すぎるスコアでした。来年も幹事一同、皆様に楽しんでもらえるよう頑張りますので、多くの方のご参加よろしくお願ひします。

優勝 中尾嘉則 準優勝 竹田正弘 3位 森安千博

(5) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(秋山博一委員長)

竹田 正弘君

(6) ニコニコボックス紹介(武田 直己副委員長)

・高橋 清文君 7RC 野球大会準優勝誠にありがとうございます。クジ運でなく堂々たる実力で勝ちとった準優勝ですね。これで文字通り4強の仲間入りです。

・石本隆太郎君、本間 剛三君 昨日、日本商工会議所より30年勤続感謝状を頂きました。

・岡村 健吉君 ハワイアンフラの松井宏美さんをお迎えしニコニコします。

・中尾 嘉則君 ①結婚記念日のお花をいただきありがとうございました。何年ぶりでしょう。嫁共々感謝感謝でニコニコします。②日曜日に参加させていただきましたゴルフコンペで、まさかの優勝。こんな賞をもらったのは何年ぶりのことでしょう。素晴らしい秋空のもと、楽しいメンバーとのラウンドに感謝です。次回開催は来年との事。長い期間ニコニコさせていただきます。

・徳永 昭輝君 ①10月18日、第34回分娩研究会を朱鷺メッセで主催し全国から220名余りの助産師さんの参加を得て無事に終わることができました。新潟市民病院での経験と開業して16年間に経験した「子宮内胎児急変症例」をまとめ「症例から何を学んだか」といった内容で会長公演を行いました。本多晃先生にも協力して頂きました。有難うございました。②10月21日、新潟ロータリークラブの最後のゴルフ大会で、またも「ブービーメーカー」としての役目を果たすことが出来ました。2回も続けると懇親会では励ましというより、何か同情の目線がそそがれ、来年はどうしようかなと迷っています。哀しみを喜びに変えて…ニコニコへ。見捨てないで宜しくお願いします。

(7) 10月23日例会の出席率 67.78%

会員数 93名(出席免除会員 7名)

出席者 61名(出席免除会員 4名を含む)

(2週間前メーク後 87.91%)

11月17日の例会予定 「卓話なし」

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

～\*～\*～ 懇親会 ～\*～\*～

18:00 懇親会開会:親睦委員長挨拶

18:00 乾杯:石本パストガバナー

歓談 (緋毛氈用意)

18:20 雅楽演奏 8名(15分)

18:35 雅楽終了 歓談

ハワイアン、ミュージック CD

19:10 ハワイアンフラ 5名(20分)

19:30 ハワイアンフラ終了 歓談

19:45 抽選(月見饅頭)25箱 くじ引き(10分)

19:55 くじ引き終了

19:50 への挨拶 大澤幹事

19:55 手に手つないで 合唱

20:05 お開き

雅楽演奏について安藤 栄寿会員のご説明

今日は皆様に 日本の伝統文化の源流である雅楽に、秋の夜長ひと時ふれて頂こうと、獅子吼雅楽会(しくががくかい)をお迎えして演奏して頂きます。雅楽は現在、ユネスコの「人類の無形文化遺産」にも登録され、世界に誇る、日本最古の音楽文化財として注目を集めています。その雅楽のあゆみは、季節を愛で、千数百年の時を超え、自己を超えた世界観を内包し、その響きは、諸行無常と二つとして同じ時や出合いが無いように、刹那せつな生まれては消えていきます。

平安時代の人々は、雅楽の演奏を見聞することで、世の無常の中に今ある事の尊さを連想し、日常を過ごされていました。この瞬間しか出合えない和の響きを楽しんで下さい。それでは、獅子吼雅楽会の皆さんに出仕していただきましょう。

出仕

今日は雅楽に親しんで頂く、六つある雅楽の調子の中から、秋の調子である平調(ひょうじょう)から3曲、そこに漢詩に旋律をつけ、歌う朗詠を一曲の、計4曲を奏楽して頂きます。まず、音取(ねとり)と言い、これから演奏される楽曲の雰囲気を出し、楽器の音程などを整える短い前奏曲から始まり、改めて一曲目の越殿楽(えてんらく)と移っていきます。この越殿楽は、中国唐伝来の曲といわれますが、我が国に伝来されてからは、平安の時代に好まれたらしく、宮廷に昇殿あるいは降殿する際に演奏された曲とも伝えられ、他曲にはない独特の旋律は、いかにも優雅な流れを持ち、比類なき名曲として親しまれています。

演奏・平調 音取(ヒョウジョウノネトリ)越殿楽

次の曲は「陪臚」(ばいろ)という曲です。

「陪臚」はテンポのよい曲で 舞もあり、古代インドの神話で、仏教に帰依し、善政をしいた バイロ チカーナ 王の物語に 由来する舞といわれ、また、多くの逸話のある 曲でもあります。

#### 陪臚 演奏

次は朗詠で曲は「嘉辰」(かしん)です。

朗詠は、平安中期から流行した歌謡で、漢詩の一節を雅楽化したもので。「嘉辰令月(かしんれいげつ) 歡(よろこび)極み無し、万歳 千秋の樂(たのしみ)は未だ央(つ)きず」と書き。意味は「このよい時、よい月に喜びの限りはない。いつまでも いつまでも続く楽しみはまだ尽きていない」と、二度と繰り返すことのできない時と場を、今出逢っている喜びに打ち震える気持ちを表しています。では「嘉辰」を歌って頂きましょう。

#### 「嘉辰」演奏

本来雅楽は「時間」を超越した音楽で、「月のおもしろきに 夜ふくるまで あそびをぞ し給ふ」とも詩に詠まれています。平安時代、殿上人は、時の経つのも気にせず、今風に言えば「サロンの音楽」として、親しい仲間が集い、心の赴くままに時間を忘れて楽しむものであったのでしょう。当時の人々は、現世を超えた世界観をそこに見出して、喜びに心を震わせていたのではないのでしょうか。そこには演奏者と聴衆者という関係を越えたものが存在したようです。

いよいよ最後の曲となりましたが、曲名は五常楽(ごじょうらく)

この「五常楽」 中国唐の時代の作であります。平安時代にはまずこの曲からお稽古を始めたそうです。

儒教の 五つの徳である。

仁「他人に対する親愛の情」

義「正しい行いを守ること」

礼「敬意をもって他者と接し社会秩序を重んじる」

智「物の道理を知り、正しい判断を下す能力」

信「正直であり他者を欺かない事。」

の五徳を、音階にあてはめて、その心を内包せよとの願いが込められたのでしょう。

#### 五常楽急 演奏

演奏終わり楽座より正座に座り直し一礼

退出

